

或人云、此句は烏丸亞相公の也と。

〔續山の井春〕鏡餅

神の餅やうやまへば威をます鏡

〔本朝食鑑二造釀餅略〕中本邦自古以餅爲神明之供、而作大圓塊、以擬鏡形、故呼餅稱鏡、此擬八咫鏡乎、

正月朔旦、必以鏡餅供于諸神、及一家長幼團樂、同薦鏡餅以賀新歲、略中凡用鏡餅祝賀儀、以二箇相

重號一重、此諱奇用偶者乎、

〔鋸宵譚〕新拾遺集、十二月晦日に藤原基俊乃子法師といふが許に、略註もちのかゝみ遣すとてい

ひやりける、略中按に、歲始用大饅如鏡面者、神前に供し、又君父に供し、或每人居前以嘉祝之、此吾

神國之風なり、直にこれをかゝみといふ、亦良有以也、

〔禮容筆粹五〕年鏡 鏡は神明の正體なれば、餅を以てその形をうつし、年の始まづむかひ奉る事

むべなりけらし、是吾國の人遠き昔を忘れざるの謂か、先君父に備へ、宗族の方に送り、互にこと

ぶきをなす、

〔日本歲時記一〕正月元日、略中又齒固といひて、もちるかゝみにむかふ、俗に餅を鏡の形に作る故

天如が對類大全卷之十七、餅字の下の細注にいほく、麥米粉做成形、如鏡、入於爐内、烘熟、蓋始于戰國、これを以てみれば、もるこしにも饜餅の類、鏡の形に作ると見えたり、

〔理齋隨筆五〕正月の餅を鏡といふは、日月に表したる也、禁中の餅は上は紅く下は白きよし、また

ひしと云は星と云事也、花べらと云は未詳、此條も或人非也といふ、さりながら一説と見るも

まだ可ならんか、

〔世諺問答〕正月 問て云、同日元齒固といひて、餅るかゝみにむかふ事は、いかなることぞや、答

略中餅は、蚩尤が肉となづけてくふ説も侍り、

〔世諺問答考證上〕かゝみ、略中瑜案するに、餅といふ名は同うして、物は同じからねど、正月元日

秋田大光院桂葉